

# 平成29年度病害虫発生予察注意報第7号

平成29年10月17日  
愛 知 県

作物名：果樹（カキ、カンキツ）

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 豊橋市に設置した予察灯において、チャバネアオカメムシとツヤアオカメムシの誘殺数が9月第5半旬から増え始め、10月第2半旬には、それぞれ337頭と931頭誘殺された（図1、2）。チャバネアオカメムシの9月第5半旬から10月第2半旬までの累計誘殺数は505頭（平年61頭）、ツヤアオカメムシの誘殺数は1,109頭（平年64頭）で、過去10年間で最も多い。
- (2) 東三河地域では、9月下旬以降、カキ園及びカンキツ園で果樹カメムシ類が確認されており、豊橋のカキでは被害も出始めている。
- (3) 本年はヒノキ球果の着生量がやや多いため、9月下旬から遅くとも10月上旬以降に平年より多くの果樹カメムシ類が果樹園に飛来すると予測される。
- (4) 名古屋地方気象台10月12日発表の1か月予報によれば、10月21日から27日の週を中心に気温がかなり高くなる見込みで、今後、果樹カメムシ類の果樹園への飛来増加に伴う被害の発生が予想される。

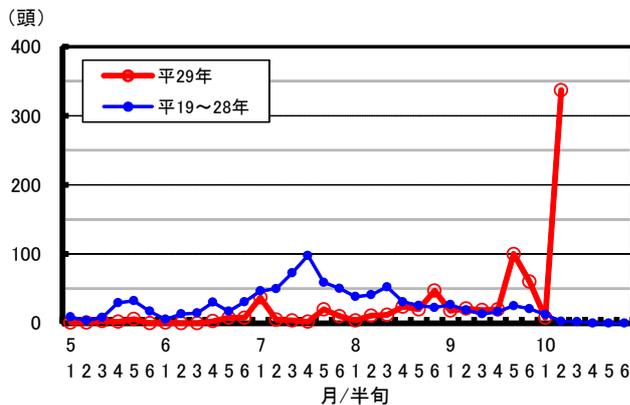


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況（豊橋）

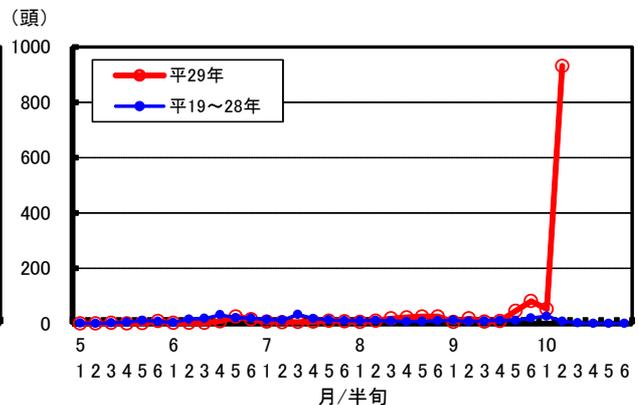


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺状況（豊橋）

## 4 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は気温が高く風の弱い夜に果樹園へ飛来することが多いので、ほ場での飛来状況をよく確認する。局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、被害の発生状況は園地間差が大きい。過去に果樹カメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。
- (2) 発生を確認したら、次表を参考に薬剤を散布する。

表 かき及びかんきつのカメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	希釈倍数	使用回数	IRACコード
かき	アドマイヤー水和剤	収穫7日前まで	1000倍	3回以内	4A
	キラップフロアブル	収穫7日前まで	2000倍	2回以内	2(B)
	ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2000～4000倍	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫7日前まで	1500倍	5回以内	3(A)
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫3日前まで	2000倍	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫3日前まで	3000～6000倍	2回以内	3(A)
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A
かんきつ	MR. ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2000倍	2回以内	3(A)
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫14日前まで	2000倍	3回以内	4A
	アドマイヤーフロアブル	収穫14日前まで	2000～5000倍	3回以内	4A
	アグロスリン水和剤	収穫7日前まで	2000倍	3回以内	3(A)
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	3000～6000倍	3回以内	3(A)
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[http://www.jcpa.or.jp/lab/pdf/2017/mechanism\\_irac.pdf](http://www.jcpa.or.jp/lab/pdf/2017/mechanism_irac.pdf)を参照する。  
薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

## 5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話：0561-62-0085（内線471）